

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	心身に不安のある方の無料健康相談と支援
事業名(副) <small>※任意</small>	

入力数 主 19 字 副 0 字

実行団体名	特定非営利活動法人 サロンみんなの保健室
資金分配団体名	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input checked="" type="checkbox"/> 窮地を乗り越えた後の健康不安や社会適応困難に関する相談と支援（アフターコロナ支援）
------------------------	---

入力数 41 字

SDGsとの関連

ゴール
_3.すべての人に健康と福祉を
_16.平和と公正をすべての人に
_17.パートナーシップで目標を達成しよう

実施時期	2021年7月～2022年2月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (栃木県)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	心身に不安のある方で特に孤立化しやすい方、自己管理能力の低い方を重点的に対象者とする。*自己管理能力が低いとは、生活環境が悪く、健康意識が低い。また健康に関する知識がなく、自己対応力がない状態。	事業対象者人数	約80人
------	-----------------	--------	--	---------------------------------------	---	---------	------

I.団体の社会的役割

(1)団体の目的
昨今の社会背景から、人々の孤立化や生活格差が健康問題に影響することが多く、貧困や知識不足は健康格差につながる。更に慢性的な未病の状態から重篤な病気になり命の格差につながっている。そこで、気軽に立ち寄れる健康相談のできる場所を作ることにより、日常的な健康管理の支援をして、人々の自己管理能力の向上を目指すことを目的とする。
(2)団体の概要・事業内容等
1. 心身に不安がある方の面談と電話による健康相談事業 2. 健康維持増進に関する個別支援事業（中高年のメタボリックシンドローム予防、高齢者の虚弱体質改善、フレイル予防など） 3. 健康維持増進に関するセミナーや交流会に関する企画・運営事業。実践者は看護職（保健師・助産師・看護師）社会福祉士計8人でシフトを組み2人～3人体制で対応している。活動日は火曜日・水曜日・木曜日の午後2時～6時である。活動日にあたる祝日はオープンしている。来室による利用者数は2020年9月～3月 延べ150人である。

入力数 (1) 160 字 (2) 246 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
不要不急の外出を避けてきたことによる孤立化の助長、新型コロナに対する恐怖心から心身のストレスによる身体への影響。行動制限による高齢者の筋力低下。感染を恐れ病院受診を控えることにより病状悪化の危険。またコロナウイルス感染を治療し退院や退所後の後遺症の不安や社旗環境への不適応による不安、家族関係のひずみ、生活基盤の漸弱化による生活困窮など。もともと生活基盤が弱い方が顕著であるといえる。社会全体が先の見えないコロナとの戦いに心身とも疲れている人々が多く、そのことが心身の不調につながっているといえる。ワクチン接種に関する不安と知識の偏りがみられる。

入力数 275 字

III.事業内容

(1)事業の概要
1. 無料の健康相談と支援 活動日 火曜日・水曜日・木曜日 午後2時～6時 方法：対面による相談・電話による相談（孤立化防止のためできる限り対面によるカウンセリングを進めている） 支援者は有資格者（保健師・助産師・看護師・社会福祉士）シフトを組んで2人～3人体制 2. 健康維持増進のためのセミナーや交流会の実施 月に1回～2回：高齢者の虚弱の改善、生活習慣病予防、依存症予防、など企画する。講師は内部講師の他に多職種と連携し依頼する。

入力数 219 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
一人で心身の悩みを抱えている方が「サロンみんなの保健室」を利用することにより孤立化防止に寄与できる。またNPO活動他団体との連携・協働を進めることにより利用者の拡大・強化ができる。「サロンみんなの保健室」活動が人々から認知され、地域の健康の拠点場所としていく。

入力数 163 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
1. 一人で、心身の不安や悩みを抱えることなく「サロンみんなの保健室」で相談することができる。 2. 健康に関するセミナーを開催し、健康維持・増進に寄与する。	1. 健康相談の来室者数 2. セミナー開催数と参加者数 3. 連携・協働した団体数	1. 利用者台帳によるデータ 2. 日報の記録 3. 会議録	1. 健康相談数 延べ80名 2. セミナー、交流会の参加者 延べ70名 3. 連携・協働した団体数 2団体	1. 2022年2月末 2. 2022年2月末 3. 2022年2月末

(4)活動	時期
無料の健康相談 火曜日・水曜日・木曜日午後2時～6時 祝祭日も実施 有資格者が2人～3人体制で対応する。（出前健康相談を含む）	2021年7月～2022年2月
健康維持増進のためのセミナー、交流会 : 月1回以上 (出前講義も含む)	2021年7月～2022年2月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	事業の総責任者： 理事長 事業の進捗管理：理事会（理事7名 監事1名 計8名）
(2)他団体との連携体制	宇都宮医師会（社会支援部）：アフターコロナ等で気になる事例の紹介を受け随時連絡を取る専用の携帯電話を設置、 栃木県看護協会：看護職等の情報交換 栃木県社会福祉士会：福祉に関する情報交換と連携、他ボランティア団体等との情報交換と連携・補完等
(3)想定されるリスクと管理体制	・不特定の方が出入りするため、感染防止対策の徹底（マスク着用・検温・手指消毒・問診）、対面による相談・血圧測定・酸素飽和濃度測定など接触するため、随時消毒の実施、面談場所の消毒散布、定期的換気の実施などで対応する。

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
新型コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、新型コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
特記無し				